

# 響



## ひびき

〒384-0006  
小諸市与良町6-5-5  
TEL.0267-31-0251  
FAX.0267-31-0140



令和4年2月15日  
No.8

振り返ると、  
楽しかったな  
だけじゃない。



### 響 第8号 「振り返ると」 —もくじ—

考える部屋	よりよい支援を目指して 特別支援教育	②
考える部屋	「振り返る場面」を より充実させるためには	③
研修の窓	「違い」を生かして語り合う 研究主任研修会Ⅲ	④

振り返ると見えてくるものがあります。昨日よりちょっと前に進んだ自分や、これからどこに向かおうかという見通し。

それは、どんなことに気づいたのか、どんなことができるようになったのかなどを心にとめて振り返ったから、見えてきたこと。

楽しただけではない大事な学びに気づきます。



「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。  
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所までお問い合わせください。



# 考える 部屋

## よりよい支援を目指して

先生方が今まで出会ってきた子どもの中に4コママンガのだいすけさんに似た子どもはいましたか？

### 自分の伝えたいことを衝動的な行動で表すだいすけくん



国立特別支援教育総合研究所  
「自閉症のある子どもの自立活動について考えよう！」より



さと子先生は、だいすけさんの衝動的な行動に困っているようです。だいすけさんの行動の背景について、考えてみましょう。

### 行動を書き出し、見える化する

直前の状況（いつ、どこで、何をして、誰がいたか等）  
↓  
困った行動  
↓  
直後の状況（周囲はどんな対応をしたか、何が起きたか等）

直前の状況は？

だいすけさんは、前時を想起する先生の言葉をきっかけに教材をとろうとしたと考えられます。

直後の状況は？

だいすけさんは、学習に生かそうと思って教材を手にしたのに、注意されてしまったことで困っていると考えられます。

さらに！

### 発想の転換をする

子どもが困った行動をする  
↓  
その子が困った状況に置かれている  
その行動をせざるを得ない理由がある

どんなことに困っている？

だいすけさんは、自分が伝えたいことを先生がわかる方法で伝えることができず困っているのではないかと考えられます。

困った行動をやめさせるのではなく、子どもにできるようになってほしい適切な行動を具体化し、それを促すために、環境、状況、対応を変えると子どもの行動に変化がみられることがあります。

国立特別支援教育総合研究所  
「知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット(小学校編)すけっと」を参考に作成



詳しくはこちら

特別支援学級に限らず、どの学級においても同様に困難さを抱えている子どもがいると思います。子どもの困っている状況に私たち教師がどう支援したか、じっくり振り返ったり、発想の転換をしたりして、子どもの行動の意味や抱いた思いに気づき、よりその子に合った支援を考えていきたいものです。



## 考える 部屋

# 「振り返る場面」をより充実させるためには

授業の終末では、学習カード等を使って1時間の学習を振り返る時間をとっていますね。子どもたちなりに感想や事実について書いていますが、学習の内容や過程にも触れてほしいと思うことはないでしょうか。振り返る時間に、子どもが「わかったこと、学んだこと」に触れるようにするには、どうすればよいか考えてみましょう。



A先生

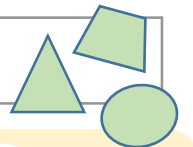
振り返る時間は確保していますが、子どもたちの記述は様々です。子どもたちに、「わかったこと、学んだこと」等を記述させ、授業を通して学んだことを自覚してほしいと思っています。

「振り返りましょう」と伝えるだけでは、学んだことを自覚するのは難しいかもしれません。どんなことを書いてほしいのか具体的にイメージし、その記述ができるように適切な声かけを工夫してみませんか。



### 小2 算数 三角形と四角形

本時のねらい：図形を構成する要素の辺の数に着目して、三角形、四角形を分別することができる。



#### ①記述させたい文章を具体的にイメージする

事前に、ねらいに照らして、記述してほしい内容を具体的に書き表してみましょう。

「楽しかったです。よくできました。」  
といった内容ではなくて、  
「図形を分ける時には、辺を数えれば三角形、  
四角形、その他に分けることができる。」  
と、書いてほしいな…。



ぜひ、具体的に書き出してみてください。授業構想が整理できます。

#### ②記述してほしい内容に導く言葉がけを考える

書いてほしい内容に導く言葉がけを考えてみましょう。

三角形と四角形とそれ以外の図形に分けられたね。どんなことに気をつければいいかな？  
見分ける“コツ”を書いてみよう。

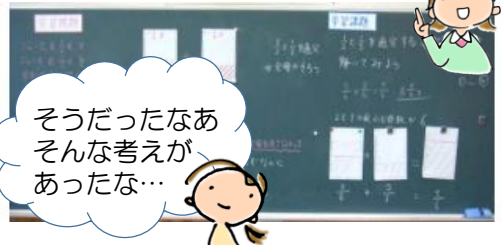


何を書けばよいか示すことによって、子どもは自分の考えを整理することができます。言葉がけ、大事です。磨きをかけたいですね。

さらに

黒板を見ながら今日の授業を振り返ってみましょう！

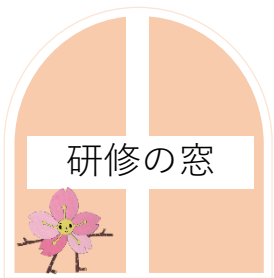
「今日の授業を振り返ってみましょう」と伝えて、板書を見るように促し、どんな意見や考えが出て、学習が広がったり深まったりしたのか、全員で確認する場をもちます。その上で、分類したときのコツを問えば、考えが整理されて学んだことを自覚できるようになることが期待できます。



そうだったなあ  
そんな考えが  
あったな…

振り返る場面を充実させるには、もちろん、授業のねらいが明確になっていくことが必要不可欠です。その上で、ねらった力が身についたのかどうか自覚できるようにするためには「何と問えばよいか」考えてみましょう。おそらくそれは、「振り返りを書きましょう」ではないはずですね。





# 「違い」を生かして語り合う ～新しい発想の創出や考えの明確化へ向けて～

第3回研究主任研修会で、3校の研究主任が発表した今年度の取組。個々の発想や考えの「違い」に学ぶ学校の研究推進から学びましょう。

## 教科を越えてアイデアを出し合う ～上田市立第六中学校～



社会科の授業づくりに他教科の先生も参加する機会を設けました。すると、一つの教科では気づかなかったアイデアが出されました。「こんなのはどう？」という様々な視点からの意見が改善案へとつながる体験を通し、他教科と学ぶよさを感じました。



A主任

## 互いの経験から学び合う ～佐久市立野沢中学校～

「校内の先生が講師となるICT研修」がよい取組になりました。普段とは違い、教える立場を体験します。また、教わる立場の先生からもアイデアが出され、ICT端末の活用について認識が深まりました。研修を受ける人、行う人を固定せずに語り合うことの意義を感じました。



B主任

- 【先生方が講師となった講座の企画内容】
1. オンライン会議ツールの使い方 (技術科A先生)
  2. 付箋ツールの活用 (理科B先生)
  3. アンケートツールの活用 (社会科C先生)
  4. プレゼンツールの活用 (英語科D先生)
  5. ワープロツールの使い方 (社会科E先生)
  6. メッセージツールで校務改善 (国語科F先生)

## 個々の自己テーマを明確にする ～佐久市立岩村田小学校～

### 小グループ

1グループ 4・5人  
異学年・専科で構成されたグループ



### 話す

- ・テーマについて
- ・日々の実践について
- ・悩みや課題について
- ・児童理解について



### みる

グループ内を中心に授業を見合う。「10分でも30分でも」

### 大グループ

2つのグループが合体



### 深める

大グループによる授業づくり  
メンターチーム



C主任

学年も、経験年数も異なる多様なメンバーでグルーピングし、個々の自己テーマについて質問や意見を出し合いました。自分と異なる考えが、これまでの取組を見返すための貴重なヒントとなり、自己テーマの更新が進みました。いろいろな意見、立場の違いを生かした重点研究となりました。

## 個々の自己テーマ

校内の先生方が理解し合い、対話して情報を共有しながら、自ら考えを更新したり、相互に深め合ったりしていることが分かりました。先生方は一人一人がよい考えをもっています。それぞれのよさから新たなものを生み出すことの大切さを3校の発表に学びました。

多様性の時代です。「違うから遠ざかる」でなく、「違うから近づいてみる」ことによって、いろいろな立場の違いを生かした研修ができるのではないのでしょうか。

